



2020年度 年主題「こころが満たされる」

0・1・2歳児3月主題 「だいすき」
月のねがい
◎神さま、イエス様を大好きと感じる(0)◎外に出て風や花や虫など春の自然を感じる(0)◎保育者や友だちへの親しみと信頼が深くなり、安心して過ごす(0)◎「だいじょうぶ」と言うことで、ささる神さまに感謝する(1.2)◎大好きな友だちと進級を楽しみに待つ(1.2)◎自分でできることが増えて自信をもって生活する(1.2)

3・4・5歳児3月主題 「希望をもって」
月のねがい
◎いつも一緒にいて下さる神さまを信頼し、大きくなることを楽しみにする。◎友だちと工夫して遊ぶ楽しさを十分味わう。◎友だちや保育者とのつながりを喜び、心が満たされる。◎これまで守って下さった神さまが、これからも導いて下さることを信じ、感謝する。◎様々な場面で自分の思いや考えを表し、友だちと互いに分かち合いながら取り組む。



かっこよくて優しい年長さん、ありがとう!

まだまだ寒い日もありますが、こども園には菜の花や桜の花が咲き始めました。園内をお散歩していると色々な草花をじーっと見つめたり、「きれい!」と喜んだりして少しずつ春の訪れを子どもたちと感じる今日この頃です。

1月の後半から持久走大会に向け、園内のロータリーを走ってお稽古! アップダウンのある道を何周も走り、その後も園庭遊びでは元気にサッカーをし、疲れ知らずの子どもたちでした。本番はさすが年長児、力強く長い長い距離を止まることなく走りきることができました。本当に本当にかっこよかったです! みんな、最後までよくがんばりました。

さて、年長児と過ごせるのもあとわずかか…。年長児の普段の園庭での姿を紹介します! もも組も園庭で遊んでいると、1歳児のAくんが二輪車の荷台に乗せてとアピールすると、年長の男の子が乗せてくれました。

Aくんがにこにこしながら「あっち!」と指差すと、「わかったよ!」と指差した方へ…しばらく乗せて押してくれました。「みどりのおうち」ではままごとあそび、色々なクラスのお友だちでたくさんの料理を並べていました。その中に1歳児のBちゃんも座っていると、年長の女の子が「これ、食べる?」と優しく声を掛けてくれ、ちゃんに手渡してくれました。「おいしい?」と尋ねても、ごによごによと答えるBちゃんに、「わからないな」と言いながらも、一緒にままごとをしてくれました。その眼差しがまるでお母さんのようでした。

もも組が保育室に戻る時間になると、保育者が戻るように促すとイヤイヤ! のもも組ですが、お兄ちゃん、お姉ちゃんに手を繋いで戻る時はにこにこです。いつも優しく遊んでくれてありがとう♡

進級、進学まであとひと月、期待や楽しみ半分不安もあることでしょう。ご家庭でもお子さんにゆったりと関わっていただけたら幸いです。大好きな年長児との1ヶ月を子どもたちみんな、職員一同大切に過ごしていきたいと思ひます。

大河



今月の聖句 「いつまでも残るのは信仰と希望と愛、これら3つです。」

1コリント13:13
ある二人の方が、同じ病にかかりました。死に至る程の病ではなく、治療すれば治る病であったにもかかわらず、一人の方は完治し、もう一人の方は亡くなってしまいました。理由は、一方は希望を持ち、他方は希望を失ったからです。後者は死に至る病であるわけではないのに、そのことが心の大きな重荷となり、やる気をなくし、みるみるうちに元気を失っていきました。希望の有無、これはとても大きなことであることが分かります。

「いつまでも残るのは信仰と希望と愛、これら三つです。」これは聖書の中でもよく知られている言葉の一つです。信仰と希望と愛、それは永遠なもの、変わらない普遍的真理であるということです。信仰と希望は、神さまの存在と救いを信じ希望していくことです。一方、愛はその信仰と希望が形となって現わされることであり、神さまとの共同作業です。親子の愛であれ、夫婦の愛であれ、兄弟姉妹の愛であれ、友達同士での愛であれ、その現れ方は違ってても、本質において愛に変わりはありません。揺るぎない信じる存在があり、失わない希望があるところには、そのような具体的な目に見える愛の行為が生まれます。

まだまだコロナ禍の生活が続く中で、希望を失いやすい状況にありますが、むしろこの時にこそ、希望を持ち続けることが大切なのです。

協力牧師 池田基宣

3月の行事予定

2日(火)	3月誕生会
4日(木)	お別れ会・給食バインク
8日(月)	役員会、監査
9日(火)	※弁当日
10日(水)	絵本の会ラスト公演
13日(土)	卒園式
19日(金)	修了式(1号:午前保育)
30(火) 31(水)	年度末休業日

4月の行事予定

8日(木)	始園式
10日(土)	入園式・給食会(親子で降園)
24日(土)	親子遠足(※弁当日) 父母の会予算総会
27日(火)	4月誕生会

※3・4月は諸事情により変更及び中止になる場合があります。

退職のお知らせ

坪井知子保育教諭が3月末日をもって退職致します。皆様にはこれまで大変お世話になりました。今までのご支援に心より感謝申し上げます。

星とたんぽぽ 金子みすゞ

青いお空のそこぶかく、
海の小石のそのように、
夜がくるまでしずんでる、
星のお星はめにみえぬ。
見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬけれどもあるんだよ。

ちつてすがれたたんぽぽの、
かわらのすきにだアまって、
春のくるまでかくれてる、
つよいその根はめにみえぬ。
見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬけれどもあるんだよ。



ひかりの子どもらしく歩む 一巡りの旅路

穏やかで春めいてきた日々から、一転して嵐のような荒れる数日を味わいました。それでも一雨ごとに暖かさが増し、木々の葉の芽吹き(けいちつ)と春のささやきや、冬ごもりした虫が這い出して、三月の始めは啓蟄(けいちつ)と呼び、冬ごもりの虫が這い出して、三月の季節。子どもたちも一回り大きくなった身体で、変わらなく、気よく飛び回っています。二度目の緊急事態宣言の効果もあって、全国的に新型コロナウイルスの感染状況も落ち着きを見せています。しかしながら、まだまだ予断を許さない都市部における医療・介護施設などのエッセンシャルワーカーの保護者のために、休み無く保育を続けておられる保育者の皆さんに心から敬意を表し、平安を祈りたいと思ひます。

幼児期の生活は、家族という親しい人間関係の生活から、生活の場や他者との関係、興味や好奇心が急激に広がる世界ともいえます。まさに依存から自立への始まりです。はじめての集団生活で、多くの友だちと活動を展開する充実感や満足感を味わうことができたでしょうか。時には感情をぶつけ合う中で、喜びや悲しみ、楽しさや悲しさを感じながら自分の気持ちを整理していき、心が軽くなるような瞬間に出会い、友だちや教師と探求心を呼び起こすようなものに出会い、それぞれの一巡りの旅の中で、子どもたちが経験した多くのことは、一見マイナスイメージされても、後には豊かな恵みに変化していく姿も知ることが出来る幸いでした。子どもたちが輝かせる瞳の光が私たちに支える大きな力であることは確かです。

『ひかりの子どもらしくあゆみなさい』。いつものように年長児の「卒園の歌」の歌を聞きながら、この聖句を卒園記念の聖書に書き込んでいきます。一人一人の顔を思い浮かべながら筆を運ぶこの時間は、まさに至福の時です。個々の育ちの過程にしっかりと寄り添えることができたのか。自己肯定感が育まれるような言葉掛けができたのか。発達に最も大切な「あそび」が自由な探索できる環境が整えられたのか…。静かに内省する時でもあります。しかし、このコロナ禍にあって、何よりもたくさんの体験環境を備えることができたことに感謝でした。光は明るく、温かく私たちに照らし、希望を与え、愛の心を育ててくれます。私たちは、すべての園児たちがキリストの光に照らされ、「神様の子ども」として成長するようにと祈りつつ保育を行っています。子どもたちを忍耐強く、温かく見守り育てていくことは、希望に胸ふくらませて春を待つ気持ちに通じます。金子みすゞの詩にあるように、星の星やたんぽぽの根のごとく、見えないけれど確かに在る神さまの大きな愛と人々の愛に満たされ、心優しいひかりの子として歩むことが出来ますように祈っております。どのような時代にあっても、一番大切なものは、いつも目に見えないのだということを忘れず、支えたいと思ひます。この一年間、保護者の方々には色々な面でご支援ご協力を戴き、誠にありがとうございます。多くの足らざるところをお詫言ひし、心より感謝申し上げます。

園長

幼児期は社会性の土台づくり

子供の発達～自己形成と社会性の獲得

乳児期 愛情とスキンシップを与えられることで情緒が安定	幼児期前期 (1～3歳) 親との会話や遊びを通して社会性の土台を作る	幼稚園～小学校低学年 (4～7歳) 子供同士で遊ぶことを通じて思いやりや道徳性、他人への信頼感などを獲得していく
---------------------------------------	--	--

親への信頼・愛着 → 自我の目覚め → 社会性の芽生え・発達 → 自立へ

子どもはいつか独り立ちします。その時に重要となるのが人付き合いや環境の変化に対応できるスキルです。そのスキルの根本となる「社会性」を育むにはどうすればよいのでしょうか。

一般的には「自分の気持ちや考えを周りの人に理解してもらい、相手に表現する力」と考えられています。つまり、「聴く」「話す」「従う」など、他人とうまく関わるための基礎的な力であり、その力を育てることが社会性を育む事につながります。

がると言われています。

土台がきちんと作られてきたら、4～5歳くらいの時期から社会性を身につけるようにしていくといわれています。社会性は、自分と他者の違いを受け入れ、そのことを考えた上で行動するという事です。園では年齢の近い子どもや先生との関わりが中心なので、多様性のある関わりを持つには、いろいろな人と出会う環境に積極的に連れ出すことも大切なことです。

子どもは1日の多くを占めている遊びの時間を通して、

- ※勝ち負けのうれしさ、悔しさ
- ※自由に創造する力
- ※がんばったときの達成感
- ※挑戦する積極性
- ※最後までやり抜く力、集中力

など、人生において重要となる様々な経験をしています。また、子ども同士で遊ぶ中では、

- ※「〇〇ちゃんを助けよう」といった思いやり
- ※「こういうことをしちゃいけない」などの道徳性
- ※人との関係を築くためのコミュニケーション力なども育むことができます。

子どもにとって勉強もとても大切ですが、社会性は子どもが自立していく上で最も重要な力といえます。人生の財産になる大切な力をしっかりと育んであげましょう。小さいうちは両親との関わりを通して、してはいけないことをきちんと教えてあげることが、社会性の土台形成に必要不可欠です。